

第74次印旛地区教育研究会  
道徳研究部(中学校)

自己を見つめ、心を耕して、コミュニケーション能力を  
高めるための道徳教育

～主体的に行動できる生徒を目指して～



令和6年8月20日(火)  
志津コミュニティセンター  
白井市立桜台中学校  
志賀 さおり  
高橋 勇太  
森 百合花

## 1. 研究主題

自己を見つめ、心を耕して、コミュニケーション能力を高めるための道德教育  
～主体的に行動できる生徒を目指して～

## 2. 研究主題の設定

### (1) 本校の教育目標の観点から

本校の学校教育目標は、「夢を持ち、自ら伸びる心豊かな生徒をめざす」となっている。生徒が「自ら伸びる心豊かな生徒を目指す」ために、学校の研究主題としても「心を耕す集団作り」～主体的に学習活動に取り組む生徒の育成～を掲げている。生徒が前向きに主体的に取り組むためには、生徒自身がやる気になることが重要である。わからなかったことが、わかるようになったり、できなかったことができるようになったりすることで、「もっとやりたい」という活力が生まれてくる。

本校では、やる気を引き出す(内発的動機付けに基づいた)授業実践において「学び合い」を重視し、生徒同士の対話を通し、生徒自身が「もっとやりたい」と主体となって学びを深めていけるように、日々教育活動を行っている。

また、目指す生徒像の一つに「心豊かで、自他共に大切にする生徒」を掲げている。学び合いの中で、生徒同士が話し合いをする際の「小グループ『学び』の約束」等も作成されており、教室に掲示されている。これは、①まずは自分で考える②自分から「教えて」と訊く③訊かれたら丁寧に伝える④訊かれるまでは温かく待つ⑤仲間と学び合い高め合うことを約束としている。生徒同士の対話が学びとなり、互いに支え合う心の育成にもつながっている。

### (2) 生徒の実態から

本校は、各学年2学級ずつに特別支援学級が2学級からなる185名の小規模校である。一小一中でメンバーが変わらないこともあり、人間関係が固定化され、周りを気にして自分の意見や考えを表現できない傾向がある。また、素直で、言われたことはきちんとできるが、指示待ちで、受け身な姿勢が多い。生活体験が少ない、自己中心的言動が多い、周囲を気にして自分を表現できないなどの実態をふまえて、資料や題材の選択、発問の工夫、体験的な授業を増やすなどの工夫をし、心を揺り動かす授業実践をする必要がある。また、小グループでの話し合い活動を取り入れていくことで、互いの考え方について理解を深め、自分の考えを深めることができるような指導の工夫を行っていく。生徒の実態を考慮し、学習活動における生徒の「やる気」を引き出すには、自分や他者のよい所を認め合い、生徒が主体的に行動しようとする「心を耕す」集団作りを行っていくことが大切であると考え、この研究テーマを設定した。

## 3. 研究目標

道德科の授業を通じて、生徒のやる気を引き出し、自分や他者のよい所を認め合い、生徒が主体的に行動しようとする「心を耕す」集団作りを行い、コミュニケーション能力を高める。

#### 4. 研究の仮説

研究仮説1：3～4人での小グループでの話し合い活動を取り入れていくことで、互いの考え方について理解を深め、自分の考えを深めることができるだろう。

研究仮説2：ICTを活用し、自分の意見を言葉以外でも発信できる授業を展開することで、より多くの意見を共有することができ、コミュニケーション能力を高められるだろう。

#### 5. 研究の方法・内容

##### 【研究仮説1】

3～4人での小グループの話し合い

##### ① 話し合い方の工夫

- ・考えを出し合う
- ・まとめる
- ・比較する



目的に応じて効果的に行う

##### ② 発問の工夫

- ・生徒の思考を予想し、それに沿った発問
- ・考える必然性のある発問
- ・切実感のある発問
- ・自由な思考を促す発問
- ・物事を多面的・多角的に考えたりする発問



ねらいに迫る発問や  
問い返しの工夫をする。

##### 【研究仮説2】

ICTの活用

##### ① 導入 【Forms】【ポジショニング】など

- ・アンケートの結果を図や表で提示するので、一目で結果がわかる。
- ・自分の心の中を可視化することができる。→学級全体の傾向も瞬時にわかる。

##### ② 教材提示 【Power Point】など

- ・大きな画面に映すことにより、感性を刺激できる。

##### ③ 話し合い 【ムーブノート、オクリンク】など

- ・中心発問に対する考えをまとめることにより、自分の考えを整理することができる。
- ・すぐに全員の意見を知ることができ、自分の考えを深められる。



言葉で発信することが苦手な生徒でも、コミュニケーション能力を高められるようにする。

## 6. 研究の実践

校内の道徳研究を1学年研究部会と2学年研究部会の2つに分けて、指導案検討を行い、検証授業で研究方法を実践した。

### (1) 検証授業

#### 実践1

第1学年B組 特別の教科 道徳学習指導案

指導者 藤田 志羽

展開場所 1年B組教室

- 1 主題名 いじめの芽を摘む B- (9) 相互理解、寛容  
(教材名「「いじり」? 「いじめ」?」 出典「とびだそう未来へ1 (教育出版)」)

#### 2 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目B- (9)は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」である。中学1年生は、新たな環境で、学級の仲間や先輩との出会いの中で、見方や考え方の多様性を実感することが多くなる。同時に、自分の考えや意見を伝えることの大切さを感じる機会が増える。しかし、自分の考えや意見に固執したり、他者と異なることを恐れて悩んだりする傾向がある。良好な人間関係を気付くためには、考えや意見を伝え合い、相互理解を深めることが不可欠である。また相手の考えや意見を認め、尊重する態度を養うことは、自分の視野を広げることにもつながる。自分自身も他者も、それぞれのものの見方や考え方があることを理解することで、寛容の心を持つことができる。

昨今のメディアでは、視聴者を笑わせるための、人をからかうような行為を「いじり」と表現している。「いじり」は生徒たちのあいだでもお笑いの一種として捉えられているが、無意識のうちにいじめにつながってしまう場合がある。生徒たちはいじめをしてはならないことは学んできているが、どこまでが悪ふざけとして許されて、どこからがいじめになるのか認識が曖昧である。そのため、自分の行いをいじめだと自覚しないまま、相手を傷つけてしまうおそれがある。「いじり」と「いじめ」について考え話し合うことで、相手の立場に立って考え、理解し、尊重しようとする態度を育てることをねらいとしている。

##### (2) 児童生徒の実態について

1年B組は、計26名の学級である。一小一中の特色もあり、進級時にクラス替えを経ても気心が知れた関係で、男女、分け隔てなく仲良く生活している。女子は物静かでおとなしい子が多いが、真面目でしっかりしている生徒も多く、何人かは積極的に自分の意見を述べることもできる。男子は精神的にまだ幼く、集団でいることを好み、軽はずみな言動が目立つ。それにより相手を傷つけてしまう場合がある。また傷つけられた側が仕返しをしてけんかになる場合もある。

「いじり」に関するアンケート調査では、クラスの7割程度の生徒が、いじったり、いじられた経験があると答えた。しかしそれが絶対に悪いことだと答えた生徒は2割程度であった。また、いいか悪いかをはっきりと答えられない生徒が7割程度であった。このことから、どこまでが悪ふざけとして許されて、どこからがいじめになるのかは生徒によって様々であるといえる。

「道徳の授業」に関するアンケート調査では、道徳の授業に意欲的な生徒が多いことが分かる。授業の様子も全体的に発問に対して深く考える姿勢が見られる。また、他者と意見を交換することにも積極的である。しかし自分の意見の発表となると躊躇する生徒が多い。他者と意見が異なることを恐れる生徒が多いことが原因であると考えられる。そこでICTを活用し、クラス全員の意見を短時間で交換できるようにすることで、様々な意見があることがあたりまえであるという雰囲気を作っている。最終的には、生徒全員が自分の意見に自信を持ち、積極的に発表できるようにしたい。

本授業を実践するにあたり、次のようなアンケートを行った。(実施人数26人)

- ① 道徳の授業は好きですか。
- |            |    |
|------------|----|
| 好き         | 9  |
| どちらかといえば好き | 11 |
| どちらかといえば嫌い | 6  |
| 嫌い         | 0  |
- ② 道徳の授業で自分の意見を発表しますか。
- |             |    |
|-------------|----|
| する          | 4  |
| どちらかといえばする  | 9  |
| どちらかといえばしない | 10 |
| しない         | 3  |
- ③ 与えられた質問について友達と話し合うことは好きですか。
- |            |    |
|------------|----|
| 好き         | 11 |
| どちらかといえば好き | 11 |
| どちらかといえば嫌い | 4  |
| 嫌い         | 0  |
- ④ 友達の意見や感想を知ることは好きですか。
- |            |    |
|------------|----|
| 好き         | 8  |
| どちらかといえば好き | 16 |
| どちらかといえば嫌い | 2  |
| 嫌い         | 0  |
- ⑤ 友達の意見を聞いて新しい発見をしたことがありますか。
- |            |    |
|------------|----|
| ある         | 16 |
| どちらかといえばある | 8  |
| どちらかといえばない | 1  |
| ない         | 1  |
- ⑥ 誰かをいじったり、いじられたことはありますか。
- |    |    |
|----|----|
| ある | 18 |
| ない | 8  |
- ⑦ 友達同士でいじることについてどう思いますか。
- |               |   |
|---------------|---|
| いいと思う         | 2 |
| どちらかといえばいいと思う | 9 |
| どちらかといえば悪いと思う | 9 |
| 悪いと思う         | 6 |

### (3) 教材について

本教材前半は「いじり」だと思ふ行為を生徒が選択し、「いじめ」との違いやそう考える理由を答える内容となっている。選択肢は3つあり、「①友達に面白いあだ名をつけて呼ぶ。」、「②友達の失敗談をみんなで笑う。」、「③友達の体を押ししたりたたいたりする。」である。「いじり」の許容範囲は人それぞれ違うことに気付かせることをねらいとしている。後半は友人に「お笑い芸人に似ている。」と言って傷つけてしまったという物語が漫画で描かれている。冗談のつもりで言ったことが相手を傷つけ、いじめと受け取られてしまうという内容の漫画から「いじり」と「いじめ」はどう違い、どう同じなのかを考えさせることがねらいである。からかわれて嫌だと感じたら「嫌だ」と言えればいい、言わないほうが悪い、という流れにならないようにする。そのような考えがある限りいじめはなくなるため、なぜ言えないのか、どうしたら言えるのかを話し合わせたい。

(4) 指導観

本校は、「自己を見つめ、心を耕して、コミュニケーション能力を高めるための道徳教育～主体的に行動できる生徒を目指して～」を研究テーマとして掲げ、日々教育活動にあたった。今回の授業展開では「いじり」と「いじめ」について考え話し合うことで、それぞれのものの方や考え方があることを理解し、相手の立場に立って考えられる生徒を育てたい。そのためにまず、「いじり」について考える場面では、教材前半の内容を用いて、「いじり」と「いじめ」の違いについて班で話し合い、考えを全体で発表させることで、その認識が曖昧であることに気付かせたい。話し合いの際に、間違っただけではないことを強調し、自由な発言を促したい。次に「いじり」と「いじめ」について話し合う場面では、「ムーブノート」を使って全員の意見を可視化させることで、同じ言葉や態度でも、感じ方、受け止め方は人によって違うということを理解させたい。その際に、なぜそう思うかを具体的に書くことを重視したい。最後に、気持ちを伝え合うときに大切なことを考える場面では、これまでに考え話し合ったことを、自分のこととしてとらえ、相手の立場に立って考え、尊重しようとする態度を育てたい。そうすることで、一人ひとりがお互いを尊重し、考えや意見を自信を持って伝え合う関係を築きたい。

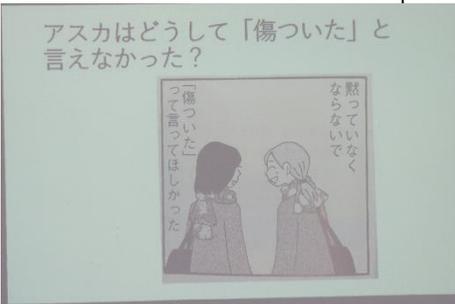
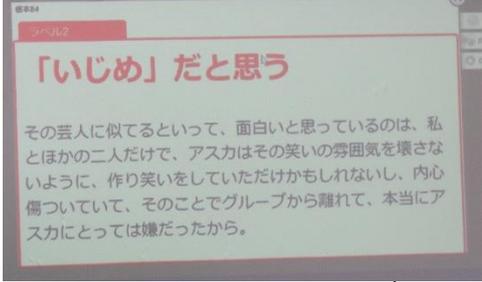
3 本時の指導

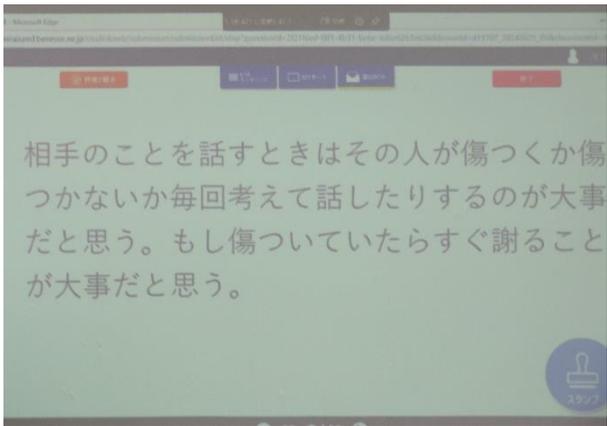
(1) ねらい

いじりといじめについて考え、話し合うことを通して、相手の立場に立って考え、理解し、尊重しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童生徒の反応	指導・支援 ○評価の視点	資料
導入	10分	<p>①「いじり」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○以前行ったアンケートの結果です。これを見てどう思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめといじりが同じくらいの割合である。</li> <li>・はっきりとしない人が多い。</li> </ul> </li> <li>○どこからが「いじめ」なのでしょう。教科書の例について考えてみましょう。</li> <li>○教科書には3つの例が挙げられています。それぞれの例について「いじり」だと思う人は手を挙げて下さい。</li> <li>○なぜ「いじり」だと思うのでしょうか。「いじめ」との違いや、そう考える理由について発表しましょう (自由な思考を促す発問) <ul style="list-style-type: none"> <li>・①はいじりだと思う。相手が傷つかない軽いものならよいから。</li> <li>・②はいじりだと思う。失敗談などで、本人も笑っていればよいから。</li> <li>・③はいじりだと思う。普段友達同士でしていることだから。</li> </ul> </li> <li>○このように、「いじり」と「いじめ」についての認識は人によって違うことが分かりますね。それでは、他の例について、考えてみましょう。</li> </ul>	<p><b>【Forms】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート⑦の結果をスクリーンに写す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.46 を範読する。</li> <li>・教科書 p.47 の①～③について全体に問い、挙手をさせる。</li> <li>・①から順番に理由を発表させる。</li> <li>・一つの例に対して一人に発表させる</li> <li>・いじりといじめについての認識が曖昧であることに気付かせる。</li> </ul>	<p>スクリーン</p> <p>教科書 p.46</p> <p>教科書 p.47</p>

展開	<p>10分</p>	<p>②「いじり」と「いじめ」について話し合う。</p> <p>○アスカはどうして「傷ついた」と言えなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言える雰囲気ではなかったから。</li> <li>・直接言う勇気がなかったから。</li> </ul> <p>○自分がアスカの立場だったら、どうしたでしょうか。今度は班で話し合ってみましょう。</p> <p><b>(物事を多面的・多角的に考えたりする発問)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言わない。(傷つかない。雰囲気を壊したくない。)</li> <li>・言えない。(雰囲気を壊したくない。勇気がない。)</li> <li>・言う。(はっきり言わないと伝わらない。)</li> </ul> <p><b>話し合いの工夫</b></p> 	<p>教科書 p.48~53</p> <p>教科書 p.48~53</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.48~53 を黙読させる。</li> <li>・全体に質問し、意見を発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数班をつくり話し合わせる。話し合いで出た意見を発表させる。</li> <li>・同じ言葉や態度でも、感じ方、受け止め方は人によって違うということをおさえる。</li> </ul>
	<p>7分</p>	<p>◎「私」がしたことは「いじり」と「いじめ」のどちらなのでしょう。自分の意見をムーブノートで発表しましょう。<b>(考える必然性のある発問)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじりだと思う。特に攻撃したわけではないし、みんなもアスカも笑っているから。</li> <li>・いじめだと思う。相手が結果的に傷ついているから。</li> <li>・笑っていたとしても傷ついていないわけではない。</li> </ul> 	<p>ムーブノート</p> <p>ムーブノート</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ムーブノートを使用し、自分の意見を書き込む。</li> <li>・教員がグルーピングを行う</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の意見を見る時間をとる。</li> <li>・それぞれの意見についてどう思うか、発表させる。</li> </ul>
<p>8分</p>	<p>○「傷ついたって言ってほしかった」という「私」の言葉をどう思いますか。今度は班のメンバーを替えて話し合います。班の中で出席番号が一番小さい人は立って下さい。立った人はタブレットを持って隣の班に移動して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手だと思う。「言えばいいのに」と言われても、言えない人もいる。</li> <li>・傷ついたからいじめと言われたら、怖くて何も言えなくなってしまう。</li> </ul>	<p>○話し合いや発表に積極的に参加し、意見を述べているか。(話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数班をつくり話し合わせる。話し合いで出た意見を発表させる。</li> <li>・できるだけ生徒の言葉を使いながら、今のように気持ちを伝え合うことが大切であることを押さえる</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」と同じ気持ち。言ってくれないと分からない。言われたほうも、見ていた人も、できるだけ思ったことを伝えたほうが、お互いわかり合えると思う。</li> </ul> <p>③気持ちを伝え合うときに大切なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いの考えや気持ちを伝え合うとき、どのような心がまえが必要でしょうか。自分の意見をオクリンクで発表しましょう。発表した人は他の人の意見を見てみましょう。</li> <li>・どんなことでも、今のように真剣に考える。</li> <li>・相手の立場に立って、気持ちを考えて発信する。</li> <li>・相手の考えや気持ちも受け止める。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>る。</li> <li>・嫌だと言わないほうが悪いという空気にならないように注意する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オクリンクを使用し、自分の意見を書き込む。</li> <li>・導入で挙げたことを思い出させる。</li> <li>○相手の立場に立って考え、尊重しようとする意欲を高めているか。(オクリンク)</li> </ul>	オクリンク
--	--	---	-------

「いじり」？「いじめ」？

- ① 相手が傷つかない軽いものならよい→いじり  
呼ばれている方が嫌な気持ち→いじめ
- ② 失敗談などで、本人も笑っていればよい→いじり  
みんなから笑われている→いじめ
- ③ 普段友達同士でしている→いじり  
暴力→いじめ

# スクリーン

4 他の教育活動との関連

- 特別活動 「学級や学校の生活づくり」
- 国語 「友達と意見を伝え合う」
- ピア・サポート 「クリティカル・シンキング」 「セルフコントロール」

## 実践2

### 第2学年B組 特別の教科 道徳学習指導案

指導者 森 百合花

展開場所 2年B組教室

#### 1 主題名 公正な社会のために C- (11) 公正、公平、社会正義

(教材名「わたしのせいじゃない」 出典「中学道徳②とびだそう未来へ」教育出版)

#### 2 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

本教材は「C- (11) 公正、公平、社会正義」にあたり、「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の現実に努めること」とある。「正義を重んじ」ということは、正しいと信じることを自ら積極的に実施できるように努めることであり、「公平さを重んじ」ということは、私心にとらわれて事実をゆがめることを避けるように努めることである。公平に接するためには、偏ったものの見方や考えた方を避けるように努めることが大切である。人には好き嫌いがあるが、他者に対して偏見をもたないように努めることはできる。人は他者との関わりにおいて生きていけるものであり、よりよく生きたいという願いは、差別や偏見のない社会にしたいという思いに繋がる。

中学2年生頃になると、周囲の目を気にし始め、自分が周りからどう思われているか気にする時期である。良くないこと、間違っていると分かっているながらも、周囲に流されて公平な判断ができない生徒や見て見ぬふりをする傍観者になってしまう生徒も少なくない。一つの例として、いじめが挙げられる。いじめは駄目なことであると生徒も理解している。しかし、それは加害者のことであり、傍観者の責任について深く考えてはこなかったであろう。傍観者もいじめの加害者側であり、自分が傍観者の立場になったとき、どう行動すべきか考えさせたい。

身近な教室内でのいじめを題材とした本教材の学習を通して、見て見ぬふりをして関わらないように避けて生活するといった消極的な立場から脱し、正義が通り公平で公正な社会の実現に積極的に努める態度を育みたい。さらに社会の一員として、公正な世の中にするために、自分ができそうなことについて考えさせていきたい。

##### (2) 児童生徒の実態について

本授業を実施するにあたり、以下のようなアンケートを行った。(実施人数 29人)

##### ① 道徳は好きですか。

好き	10
どちらかといえば好き	15
どちらかといえば嫌い	4
嫌い	0

② 道徳の授業で自分の意見を発表しますか。

よく発表する	5
まあまあ発表する	12
あまり発表しない	10
発表しない	2

③ 与えられた質問について友達と話し合うのは好きですか。

好き	8
どちらかといえば好き	17
どちらかといえば嫌い	4
嫌い	0

④ 友達の意見や感想を知ることは好きですか。

好き	10
どちらかといえば好き	18
どちらかといえば嫌い	1
嫌い	0

⑤ 友達の意見を聞いて新しい発見をしたことがありますか。

ある	13
まあまあある	11
あまりない	5
ない	0

⑥ 友達の行動が間違っているとわかっていながら、止められなかったことはありますか。

ある	5
ない	24

本学級は33名の学級であり、全体的に明るく元気な生徒が多い。授業中の発言も多く、グループ活動も積極的に取り組める生徒が多い。アンケート結果からも、発表や話し合い活動に積極的に取り組み、友達の意見を聞いて新しい発見を見いだしている生徒が多い。学級の中には物静かな生徒もいるが、グループ内での発表では、自分の考えを発表することができている。また、本校は一小一中のため、小学校の頃から変わらないメンバーで生活してきている。そのため、お互いのことをよく理解している。しかしその反面、「この子はこういう子」と昔からの固定観念が抜けない生徒も少なくない。自己主張の強い生徒やかからかわれやすい生徒、周囲からよく注意されてしまう生徒が固定されているように感じる。

事前のアンケートで、「友達の行動が間違っているとわかっていながら、止められなかったことはあり

ますか。」という質問に対しては5人の生徒があると答えた。具体的には「友達が悪口を言っていたとき」、「友達が遊んではいけない場所で遊んでいたとき」などがあつた。ないと答えた生徒は24人いたが、おそらくこの中にもこのような場面に出くわしたとき、注意できない生徒もいるであろう。いけないことだと理解はしているが止めることのできない人間の弱さや捉え方の狭さにも気づかせながら、それらを克服して正義と公正を実現することの大切さを気づかせたい。

### (3) 教材について

本教材は、いじめの状況と、責任のなすりつけ合いが描かれた絵本である。泣いている男の子を前に、登場人物たちがそれぞれの立場で様々な言い訳をしている。いじめの積極的な加害者ではなくても、無関心であったり消極的であったりすることは、いじめを助長していることであり、いじめと無関係ではないことに気づかせたい。自分がこのクラスの一員だったら、どのように声をかけるか、本当にそう言えるのか話し合う中で多面的、多角的な考えを深め、よりよい集団や社会のために自分にできることはなにか考えられるようにしていく。また、教科書の最後には銃を持つ少年、労働する子供たち、飢餓により痩せ細った子供の写真があり、読み手に多くのことを語りかけている。社会で起きている様々な問題にも自分たちがどのような関わりがあるのか気づかせたい。

### (4) 指導観

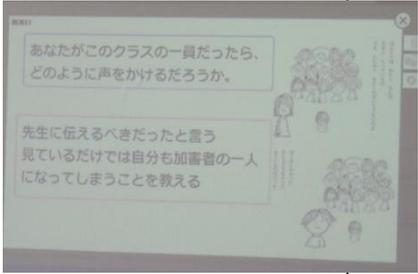
この教材を通して、全ての人大切にされる集団となるために、自分にできることは何か考えさせたい。学校生活では他者と関わり合いながら生活している。生活していく中で、好き嫌いがあるのは仕方のないことである。しかしそれを理由に、差別や偏見をもち、いじめをすることは決して許されることではない。積極的な加害者ではなくても、無関心や傍観者はいじめを助長していることに気づかせ、班での話し合いを通して、男の子が泣いている理由、どうして誰も「自分が悪かった」と言えなかったのかについて考えさせていく。そして、傍観者として勇気を出して止めるべきだと思いつつも止めることのできない人の弱さにも気づかせたい。主発問の、「このクラスの一員だったら、どのように声をかけるか」では、ムーブノートを使い、全員の意見を可視化し、意見交換できるようにする。同じクラスの一員でも、人それぞれかける言葉に違いがあり、どのように声をかければよいのか新たな気づきができるようにする。そして、正しいことを言える集団、偏ったものの見方や偏見がない公正、公平な社会にするためには、偏ったものの見方や考え方をしないように努めることが大切であることに気づかせたい。最後は身近な教室内だけでなく、世界で起こっている問題も「わたしのせいじゃない」と言えるのか考えさせることで、社会をよりよくするために、自分にできることは何かを考え主体的に関わっていこうとする態度を育てられるようにしていく。

## 3 本時の指導

### (1) ねらい

「全ての人大切にされる集団にするために、自分にできることは何か」について話し合うことを通して、社会をよりよくするために主体的に関わっていこうとする態度を育てる。



	<p>・止めたら今度は自分がいじめられるかもしれないから</p> <p>・言いづらい雰囲気だった</p> <p>・みんなやっているから自分だけじゃない</p> <p>・自分が悪いと思わなかった</p> <p>15分 <b>〈問い返し〉</b></p> <p>・自分を守るためなら誰かが犠牲になっても良いのかな</p> <p>→良いとは思わないけど、自分も同じ目に合うのは嫌だ</p> <p>・そういうクラスは居心地が良いかな</p> <p>→良くない</p> <p>8分 ◎「ほんとうは わたし みたの だから しているの」という子や「ぼくはこわかった なにもできなかった みていただけだった」という子に、あなたがこのクラスの一員だったら、どのように声をかけるだろうか。</p> <p><b>(物事を多面的・多角的に考えたりする発問)</b></p> <p>・一緒に先生のところに言いに行こう</p> <p>・一緒に止めに行こう</p> <p>・一緒に男の子のところの謝りに行こう</p> <p><b>話し合いの工夫</b></p>  <p><b>〈問い返し〉</b></p> <p>・本当にそう言えるかな？</p> <p>→言える</p> <p>→言えない</p> <p>4. 全ての人が大切にされる集団づくりのために、自分にできることは何か考えをま</p>	<p>・問い返した際に、特定の発言をした生徒が責められる雰囲気にならないように注意する。</p> <p>・多面的な考えに深められるようにする</p> <p>・ムーブノートを使い、自分の考えを書き込む。</p> <p>・他の生徒の考えを見る時間をとる。</p> <p>・意見の異なる生徒数人に発表させる。</p> <p><b>【ムーブノート】</b></p>  <p>○傍観者の責任について、自分ごととして考えているか。(話し合い)</p>	<p>タブレット スクリーン</p>
--	---	---	------------------------

		とめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人がいたら声を掛ける。</li> <li>・一人の子がいたら仲間に入れる。</li> <li>・個性を受け入れ、平等に接する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを記入する。</li> </ul> ○本時の話し合いを踏まえて、公正に関する自己課題について自分ごととして捉えることができたか。(ワークシート)	ワークシート
終末	5分	5. 教科書の写真について考える ○この写真をみてどう思うか	<b>【パワーポイント】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には同じ人間でありながら、自分たちと写真の少年たちのような違いがあることに気づかせる。</li> </ul>	スクリーン

(3) 板書計画

○全ての人が大切にされる集団づくりのために、自分にできることは何か

教科書 p.27

教科書 p.27

↓スクリーンに表示

○あなたがこのクラスの一員だったら、どのように声をかけるだろうか。

スクリーン

「わたしのせいじゃない」

公正な社会のために

- この子が泣いているのはなぜだろう
- ・生徒の考えを板書
- どうして誰も「自分が悪かった」と言わないのだろう。
- ・生徒の考えを板書

4 他の教育活動との関連

- 社会公民的分野 「持続可能な社会」、「共生社会」
- 特別活動 「集団生活をよりよくするために」

## 7. 研究の考察

### (1) 仮説1に対する考察

- ・小グループでの話し合いは、他教科でも行っているため、スムーズに行われていた。少人数なので、自分の考えを素直に言える生徒が多かった。反対意見に対しても、耳を傾けて、頷いていたり、自分の考えと比較したりして、話すことができていた。
- ・小グループの話し合いは、主発問に入るまでは、体を傾けて会話する方法が取られ、すぐにスクリーンや教師の発問へ意識がいていた。
- ・ワールドカフェの方法も使い、他のグループに移動して話し合いが進められたので、より活発な意見交換ができていた。
- ・問い返しにより、再び考えさせる場面を多くとることにより小グループの話し合いが活発に行われていた。何度も問い返しがあったので、その問い返しに反応する生徒が多かった。

### (2) 仮説2に対する考察

- ・導入のアンケート結果がスクリーンで可視化され、学級全体の傾向がわかりやすかった。
- ・教材のスクリーンへの提示は、大変見やすく、音声も入っていたため生徒の感性を刺激できた。
- ・「ムーブノート」を使用したことで、他者の意見を次々と見て、自分の意見と比較していた。色分けがあり、他者の意見がわかりやすかった。その後の話し合いは、教師の問い返しでもっと活発にすることができただろう。
- ・「ムーブノート」を使用したことで、教師が個人の意見をすぐにスクリーンに写し、すぐにフィードバックしていた。
- ・終末のまとめの考えで「オクリンク」を使用したことで、他者との意見と比較しながら記入することができ、まとめの文章がよく書けていた。
- ・ICTを活用した分、時間の確保ができたので、もっと話し合いの時間を充実させることができただろう。

## 8. 成果(○)と課題(●)

- 道徳科の授業における話し合い活動は、友達の見解に耳を傾け、他者の考えを自分の中に取り入れながら、自分の意見は正しいのか、正しくないのか、十分なのかを考えながら話す姿がみられ、コミュニケーション能力を高めることにつながった。
- 話し合い活動をした後、全体で共有するために発表した生徒は、自分の意見に自信を持って発言できた。
- ICTの活用により、発表することが苦手な生徒も、授業に意欲的に取り組む姿がみられたことから、コミュニケーション能力を高めることにつながった。
- 授業のどの場面で話し合いをするかというポイントがずれると、活発な話し合いにならないので、授業の組み立て方を工夫しなければならない。
- 活発な話し合い活動を目指すために、より自分事として考えさせる問い返しの内容を考える必要がある。
- ICTの活用については、教材や場面など、効果的に使う工夫が必要である。

### 主要引用参考文献

- ・文部科学省 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編
- ・考え、議論する道徳をつくる 新発問パターン大全集 明治図書

# 資料編

# 〈導入〉

## 実践 1 Forms より

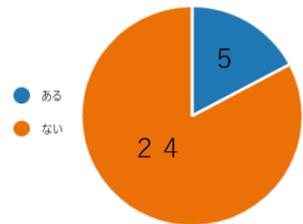
友達同士でいじることについてどう思いますか。



- いいと思う
- どちらかといえばいいと思う
- どちらかといえば悪いと思う
- 悪いと思う

## 実践 2 Forms より

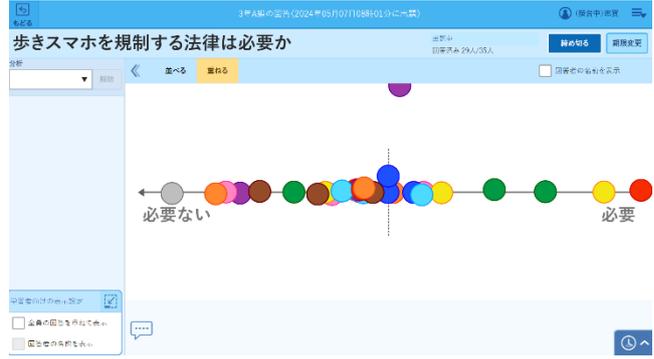
あなたは間違っているとわかっていながら、止められなかったことはありますか



## 3年授業 Forms より



## 3年授業 ポジショニングより



# 〈小グループの話し合い〉

## 実践 1 ムーブノートより

The image shows a grid of 24 movement notes (ムーブノート) arranged in 3 rows and 8 columns. Each note contains handwritten text and drawings, likely related to the 'いじめ' (bullying) theme mentioned in the text. The notes are organized into three columns: the first two columns are titled 'いじめ' (bullying) and the third column is titled 'いじめ' (bullying). The text in the notes discusses various aspects of bullying, such as its definition, its effects on victims, and the role of bystanders. Some notes include drawings of people or situations related to the text.

実践2 ムーブノートより



3年授業 話し合い後ホワイトボードにまとめる様子

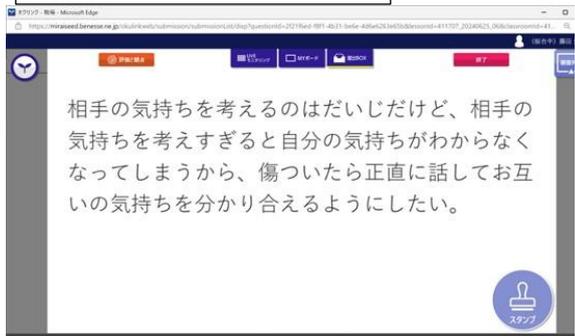


3年授業 ポジショニングの結果を見て、話し合いを深める様子



〈まとめ〉

実践1 オクリンクより



○どうして誰も「自分が悪かった」と言わないのだろう。

言ひぬると自分が悪者になってしまうから。  
おこられるから。  
仲間はずれになるから。

○全この人が大切にされる集団づくりのために自分にできることは何か

まず自分から差別やいじめをしない。  
している子を見かけたら無視はしないで一言いう  
相手のことをっねに思う

